

# 人の営み紡いだ「台地」

## 文人の 武蔵野

「武蔵国」という国の名から考えると、武蔵野は、徴兵制や単身赴任の発祥の地でした。それでは、「武蔵国」と同様に、武蔵野の範囲を説明する際の手がかりとされてきた「武蔵野台地」はどうでしょうか。

「武蔵野台地」は、荒川、多摩川、入間川に囲まれた洪積台地の呼び名で、現在では、青梅からの扇状地と、関東ローム層によって形成された平坦な地と考えられています。

### 「武蔵野」とは ⑤



ゆったりと流れる多摩川（中央）。奥は川崎市の武蔵小杉マンション群（東京都内で、本社ヘリから。2020年3月）

国際的に複数の定義のある「台地 (plateau)」という用語が日本語でいつから使われ、「武蔵野台地」という呼称がいつ生まれたのかは分かりません。その名は「武蔵

野」を借用したのですが、その範囲は「武蔵国」と重なりつつも合致しません。日本で「台地」と言えば、

周囲よりも少し高くなっている土地を指します。自然の地形の原形は、それを名指す人間の営みよりも前から存在します。したがって、現在「武蔵野台地」と呼ばれる地形自体は、その呼称以前から存在するはずですが。

さらに、「武蔵野台地」という呼称の起源は、それより前にあった「武蔵野」に由来しますが、「武蔵野」という呼称が生まれるよりも前の太古から、武蔵野台地の地形の原形はあったはずですが。

大岡昇平の長編小説「武蔵野夫人」（1950年）には、「武蔵野台地」と呼ばれる特徴ある空間を一望できる場所が設定され、太古以来（命名

以前）の地形の歴史と成因が対象化され、人物描写や物語と有機的に関連付けられながら描かれています。

武蔵野を定義するときに出される「武蔵国」は、政治や行政に関わる固有名詞であり、人の心に関わる言葉ではありませんでした。それに対して「武蔵野台地」は、川や段丘、土壌、気候変動などによって変容しながら形成されてきた自然の地形に、人間の営みが大きく関与するようになっただけから名付けられた呼び名でした。

（武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍）

過去の連載は、読売新聞オンラインでお読みいただけます。スマートフォンはQRコードから。

